

まちづくりグループ

まちづくりグループの質問を始めます。

私たちのグループは、広島県の活性化に向けて、中山間地域の振興や広島県の魅力発信について、話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「中山間地域の振興」について

1つ目の質問は、「中山間地域の振興」についてです。

最近、私が通う学校ではクラスの数が減ったり、町で見かけるお年寄りの人の数が増えたり、私の身近なところで若い人が減っていると思うことが増えてきました。実際に、広島県内の人口を調べてみると、令和4年7月1日時点で約276万人と令和2年と比べると3万5千人も減っていました。

特に、広島県の中山間地域では、20代から40代の若者、子育て世代など多くの人がその地域を離れることで、地域の活気が失われつつあり、また、高齢化率が上がることで、医療・福祉をはじめとする様々な問題が起こっている状況を知りました。

こうした地域の問題を解決したり、活性化を進めていくことが、魅力ある広島県を未来に持続していくために、重要だと考えました。

そこで提案です。魅力ある広島県を未来につなげていくために、広島県や県内の地域のことを考え、行動している様々な人や団体が、情報を共有し、協力し合うことができる「つながりの場」となるプラットフォームをつくってはどうか。

個人だけでなく、学校や企業など多様な団体に属する人が、ネットワーク上で交流したり活動事例を書き込んで様々な人と情報を共有し、相互にコミュニケーションを取り、話し合ったことを実際の活動につなぐことができれば、中山間地域の活性化ひいては、未来に向けて活気あふれる広島県を実現することができると思います。

答弁（知事）

「中山間地域の振興」についてお答えします。

本県の中山間地域は、県土の約7割を占めており、四季折々の自然が与えてくれる豊かな恵みや、守り継がれてきた伝統文化などを中山間地域ならではの価値として、将

来に引き継いでいく必要があります。

一方で、全域が中山間地域の10市町では、令和元年には、約23万8千人であった人が、令和27年には約14万7千人と、約10万人減少することが見込まれています。今後、こうした状況を背景として、主な産業である農林水産業が衰退し、医療や福祉などの生活を支える機能が縮小していくと、将来への明るい展望が描きにくくなり、人口減少にさらに拍車がかかることで、地域の価値の継承がますます困難となり、地域社会の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

このため、本県では、令和3年に策定した第Ⅱ期中山間地域振興計画に基づき、多様な力でつながる「人づくり」、夢をカタチにできる「仕事づくり」、安心を支える「生活環境づくり」を施策の柱に掲げ、全庁を挙げて取り組みを進めているところです。

これらの取組を効果的に進めていくためには、県民一人一人が、専らサービスを受ける客体としてではなく、ともに支え合い、地域をつくっていく主体として、一歩前に踏み出していただくことが、大きな推進力となります。

議員から御提案いただきました、「つながりの場」づくりは、まさに、こうした考え方と合致するものであると認識しています。

そうした中、県では、中山間地域における地域づくり人材の、プラットフォームとして、「ひろしま里山・チーム500」を、平成28年に立ち上げました。このプラットフォームには、地域にあるものを生かしたコミュニティビジネスの創出や、生活に身近な課題の解決などに、継続的に取り組む方々を地域内外から募集し、現在500人を超える方々に登録いただいております。県では、登録者同士の交流の促進や、地域を巻き込んだ活動支援などに努めているところです。

これらの方々による、耕作放棄地を活用した新たな製品の開発、かつて地域で栄えた産業の復活、高齢者の見守りや健康増進といった取組は、地域の活性化や安心の醸成などにつながっていくことから、地域にお住まいの方々からは、大きな期待とともに、協力の輪が広がっています。

こうした地域づくりの実践者が、今後、企業やNPOなど、様々な主体ともつながり、さらに協力し合える環境を整えば、誰もが活躍できる機会を得る中で、将来への「夢や希望」につながる新しいチャレンジが次々と起きてくるものと考えています。

今後とも、子供議員の御提案も踏まえながら、これからの取組を検討し一人ひとりの前向きな行動が積み重なることによって、活気あふれ、安心して暮らすことができる中山間地域となっていくよう、積極的に取り組んでいきます。

質問2 「若者に向けた広島県の魅力発信」について

2つ目の質問は、「若者に向けた広島県の魅力発信」についてです。

広島県は、山・島・海など豊かな自然と都市が近くにあり、山の幸、海の幸といった多彩なおいしい食があるなど、たくさんの魅力がある県です。

しかし、近年、広島県外への転出者が転入者数を上回る傾向が続いています。そこで、広島県を発展させていくためには、広島県への転入者を増やす必要があると思います。

地方移住を支援する認定NPO法人の調査によると、都心の女性、若者の間で地方移住への関心が高まっており、20代以下の移住希望地ランキングで「広島県」が2位となるなど、若者の移住先として「広島県」は注目されています。そのため、若者を対象にした移住促進が重要だと思います。

そこで1つ目の提案です。「広島県に住みたい！」と思えるきっかけとなるように、広島県の魅力を伝えるためのイベントを各地域で実施してはどうでしょうか。

広島県内のいろいろな地域で、移住に係るイベントを行うことで、実際に広島県に来てもらい、地域の人と関わることで移住先のイメージを知ることができます。また、人が集まる機会をつくることで、にぎわいのある地域にすることができると考えました。

次に2つ目の提案です。県外の若者を対象にした情報発信を強化してはどうでしょうか。

例えば、広島県のグルメなどのおいしい食べ物や地域での暮らしなどを、話題の芸能人を使用したプロモーションビデオを作成して、テレビCMで放映すれば、T i k T o k等を含めたSNSによる広報とあわせて、効果的な情報発信になると思います。

こうしたイベントや情報発信を通じて、県外の若者が広島県に興味を持ち、実際に移住してくれれば、よりにぎやかな広島県になると思います。

以上で、まちづくりグループの質問を終わります。

答弁（地域政策局長）

若者に向けた広島県の魅力発信についてお答えします。

東京一極集中が進展する中、広島県では、若い世代を中心に転出超過が続いており、本県が持続的に発展していくためには、多彩な人材に来ていただき、住み、働き、活躍していただくことが重要となっています。

こうした中、本県では広島を持つ様々な魅力についての「情報発信」、移住希望者と地域との「マッチング」、移住後のサポートまで含めた「受け皿づくり」の3つの取組を総合的に進めています。

具体的には、1つ目の情報発信の取組として、ホームページやSNSを活用し、情緒ある町並みや美しい自然、豊かな食など、広島の魅力や、実際の移住者の方々が、現在、広島で生き生きと暮らしている姿などを紹介しています。

また、2つ目のマッチングの取組として、広島での仕事や暮らしについてのイメージを明確にさせていただくためのセミナーの開催や、東京に開設している相談窓口では、相談者と一緒に考え、移住先となりえる市町の相談窓口等を紹介するなど、きめ細かいマッチングを行っています。

さらに、3点目の受け皿づくりの取組として、移住者の方と、移住先の市役所や町役場の職員、先輩移住者とのネットワークを作り、移住後も安心して相談や交流ができる環境づくりを行っています。

御提案いただいた、広島県の魅力を伝えるイベントの実施といたしましては、3つの取組のうち、「マッチング」の取組の一つとして、地域の方々と交流を行う移住ツアーを実施しています。

この移住ツアーでは、実際に現地を訪れ、広島での生活を実感していただくとともに、地域の人や先輩移住者との交流などを通じて、移住先としての検討を深めていただいております。今年度は、竹原市、尾道市、安芸高田市、安芸太田町の4つの地域で実施しています。

次に、県外の若者を対象にした情報発信の強化については、広島に縁のある芸能人をゲストに招いた移住フェアを東京で開催しているほか、身近に都市と自然があることを生かした魅力あるライフスタイルなど、若者の興味を惹くようなコンテンツを作成し、ホームページやYouTube、LINEなど、各種SNSを活用して、発信しています。

こうした取組を通じた広島県への移住世帯数は、平成27年度の109世帯から、令和3年度には484世帯となるなど、着実に移住者の増加に結び付いています。

今後とも、御提案いただいた内容を踏まえ、3つの取組を更に充実させることで、若者をはじめ、多彩な人材の移住を促進し、賑わいある広島県づくりに取り組んでいきます。